

特定非営利活動法人



〒360-0002
熊谷市大塚 253-1
TEL/FAX
048-525-9290
代表理事 高岸加津子

多機能事業所 第8号 ゆりかご だより

平成25年5月発行



メンバーMさん作 2.5センチ角の折り紙 千羽鶴

ー新施設長挨拶????ー



□グセが「すみませんあの～」の上原秀一です。

今回実は、実は、施設長と言う重い肩書きをいただき、かなりプレッシャーを感じながらご挨拶させていただくことになりました。

ゆりかごでお世話になり始めてもう12年がたつんですねえ。まだまだ若い気でしたが、おかげ様で今年41才のおじさんになりました。あの頃、絵を描きながら牧場で乳絞りに精を出していた私に「ゆりかごに絵でも教えに来てみない？」と高岸さんや竹中さんに声を掛けていただき「ちょっとだけ顔だそうかな」と気軽に立ち寄ってみたら、あれよあれよと職員に。

そして気付いたらこのような重い、重要な肩書きまでいただき、本当に逃げ出したい気持ちでいっぱいです。いやいや、ありがたい気持ちでいっぱいです。

正直に言わせていただきます。

私は、優柔不断で、仕事も遅く、話を聞いていても右から左、さらに嫌な仕事からは逃げて、アバウトで更に頭も悪いと欠点を上げるのならば、まだまだいくらでも書ききれないくらいの人間です。

そんな私にいただいた今回のお話は、若手(えっ? そう若手です)で、男性職員なので時間があるということだけかなあと、正直謙遜でもなく思っています

高岸さんのような素晴らしいリーダーシップもないし、他の職員の方々のようないろいろな経験もないし、みんなの足元にもぜんぜん及びません。みんな尊敬しまくりの日々です

あれ? なんか愚痴みたいになってきたので、ちょっとだけそれらしいこと失礼します。

そんな私ですが、ゆりかごでお世話になってから、毎日毎日少しずつで

すが、ゆりかごが大切に思えるようになってきています。

今ゆりかごがとても大切です。

そしてこれからきっと、もっともっとゆりかごを大切に、大好きになって行くと思います。

ゆりかごをいっぱいいっぱい笑顔の溢れる場所にしたいです。

私の中に生まれてきているこの気持ちだけは、自信があります

今まで責任あることから逃げてばかりいた私ですが、これからゆりかごのみんなを後ろから支えていけるような、縁の下の力持ちになれるよう成長していきたいと思っています

素晴らしいチャレンジ、チャンスをいただけるゆりかごに心から感謝しています

最後に私事ですが、今年1月に13年お付き合いしていた素晴らしい女性と入籍しました。まだまだ未熟者の私達ですが、皆様に教えていただきながら、これから成長させていただけたらと思っています。

これからのゆりかごと共に成長、発展していけるよう頑張りたいと思っています

どうぞよろしくお願い致します。



ー多機能事業所スタート！！ー



4月1日、簡単開所式 & 説明会に元県会議員の森田さん、元市会議員の奥様田島さん(元市役所職員)そしてこれからお世話になる嘱託医をお願いした石川クリニックの石川美穂先生にお客様として来ていただきました。

そして、参加したメンバーとご家族にこれからの説明をしました。

今まで全員が就労継続支援B型でしたが、今まで通りの就労継続支援B型と新しく始める生活介護との2つに分け、障害認定区分3以上の人が生活介護のメンバーになりました。

10人ずつの「多機能事業所」として再スタートです。



多機能にした訳は、重度の人が多くなり全員が同じように仕事をする事が難しくなったため。

とはいっても今までの部屋をキャビネットで半分に区切っただけなのでメンバーの雰囲気は今までと変わりません。



就労継続支援B型は今まで通り作業中心、生活介護はリハビリ的な事が中心と内容は少し変わってきます。

例えば月2回の音楽療法、毎週1回の理学療法マッサージ、散歩等をなるべく多く取り入れていきたいと思っています。

元気な人は、1人でいつでもどこへでも運動をしたり歩いたりする事が出来ますが、重度の人は1人では散歩や運動をする事が困難です。その為なるべくリハビリのつもりで体を動かす事を多く取り入れたいと考えています。

作業をしながら羨ましそうに横目で見ている就労のメンバーにもたまには参加させてあげようと思います。現に音楽療法は一緒に参加しています。

今まで全員が一緒に生活していたので2つに分かれてもみんなとても仲が良く、楽しそうです。



開所式の最後には紅白まんじゅうとゆりかごで作った御赤飯を配りました。やっぱり締めは美味しい食べ物ですね。

ー赤い羽根からキャラバン届くー



ほとんどの人が送迎希望で車イスのひとが多いゆりかごでは、毎日の送迎に使っていたハイエース(リフトカー)が老朽化してきて、不安を抱えながら走行していました。

そこで赤い羽根共同募金助成のリフトカー(車イス4台の10人乗り)を駄目もとで応募してみました。

赤い羽根配分委員の方が 3 人ではるばるゆりかごまで聞き取り&現地確認に来てくださいました。

今乗っているハイエース(リフトカー)が古くて、使えなくなったら直ぐに送迎に困る事、車イスが乗りきれずピストン移動するので遠出の外出が出来ない事等を切々と訴えました。

そして、運良くキャラバンをいただける事になりました。(ゆりかご負担 35 パーセント)

これで毎日の送迎、遠出が安心です。

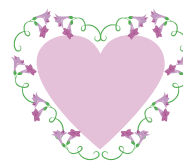
キャラバンが思ったより長く、誰でも運転できるわけではないですが、職員に少しずつ慣れてもらって 1 人でも多く運転できる人が増えるようにしていきたいと思っています。

赤い羽根共同募金、募金をしてくださった多くの人に感謝しています。

ありがとうございました。



振り返って・・・



私達（役員）のスタートはボランティアでした。

平成12年まで私たちは他所の施設を手伝っていましたが、障害者（通所しているメンバー）も健常者（職員）も平等で無いこの施設に対し、常々おかしいという感じを持っていました。

そんな事から、メンバーが普通に話が出来る施設、平等な施設を作ろうと立ち上がりました。

あれから13年。

先の事をあまり考えないようにして（考えてしまうと何も出来なくなってしまうので）ここまでやってきました。

思い起こせばデイケア施設を立ち上げた時、NPO法人になった時、就労継続支援B型変更した時、そして今回の生活介護との多機能事業所になった時、その都度みんなで話し合い、何度も何度も書類を作り、提出し、分からない事が山ほどあるなか何とかクリアーしてここまでやってきました。

大きな転機は法律の改正で就労継続支援B型に変更しなければならなかった時でした。

建物の広さが足りない、増築するのに許可が下りていない建物の是正申請が必要、変更するにあたっての難しい提出書類作り等、実際私達にとっては未知の事ばかりでした。

大変だったあの時この時を色々思い出すと、よくここまで続いたと感無量になります。

当初4名からスタートした職員も今では14名になり、大半の人がベテランになり、私達役員は助けられています。

メンバーの人数も多くなり現在22名です。

就労継続支援B型10名・生活介護10名の多機能事業所に変わりました。

身体（中途障害も多い）知的、精神と障害も年齢も様々ですが、メンバー、職員が自由に話せ、楽しく作業をしながら毎日の生活を送

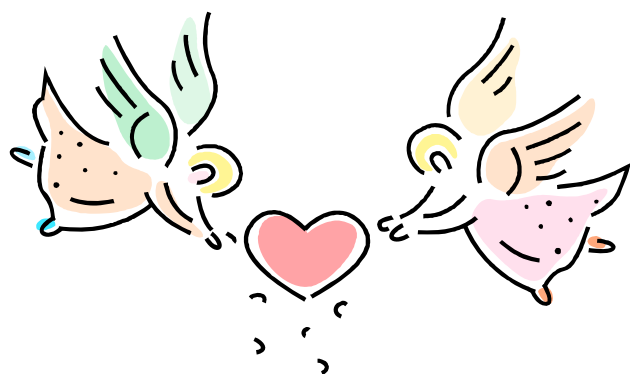
るという当初の思いが叶っているのではないかと思います。
なんとかここまで乗り越えてこられたのは、その時その時に助けて
下さった沢山の方たちや、明るく、良く気が付き、良く動く職員み
んなのおかげです。

少～しずつ大きくなっていくゆりかごに、正直ここまでできるとは
思っていませんでした。

ゆりかごと一緒に自分も少～しずつ成長していればいいのです
が・・・

沢山の人と知り合え、素晴らしい職員と出会えたことは私の心の財
産です。

再スタートしたゆりかご、これからも初心を忘れることなく、メン
バー・職員も楽しく生きがいになる施設でありたいと願っています。



ー就労継続支援B型と生活介護型に分かれてー



同じ屋根の下、4月にキャビネットで仕切られた就労継続支援B型と生活介護は、以前と違い毎日の過ごし方がそれぞれ異なっています。

就労継続支援B型は今までと同じですが、生活介護は、音楽療法・理学療法・嘱託医の訪問が看護師が新しく増えました。

一段高い所(和室)で就労継続支援B型のメンバーはテーブルを囲んで作業に励んでいます。

朝の体操とお茶の時間が終わったら、職員が作業の手順を伝えておくと、職員の朝礼をしている間に、自分たちで準備をして作業にとりかかっています。

職員の指示待ちのメンバーもありますが、なかには職員顔負けに気がきくメンバーもいて、指示待ちメンバーの面倒をよくみてくれたりもします。

一般就労を目指せる程度に軽度の障害なので、今まで職員が入っていたお茶や自分たちがいる場所の掃除なども、できるメンバーが当番制ですることになりました。

自分たちが社会に出た時に“できること”を少しでも多く身につけてくれればいいなと思っています。

就労支援ですので、基本的に午前・午後とも作業が中心ですが、本来生活介護のメンバーがする月に2回の音楽療法を生活介護の人と一緒にいき、トーンチャイムの清らかな調べに癒され、明日からの英気を養っています。



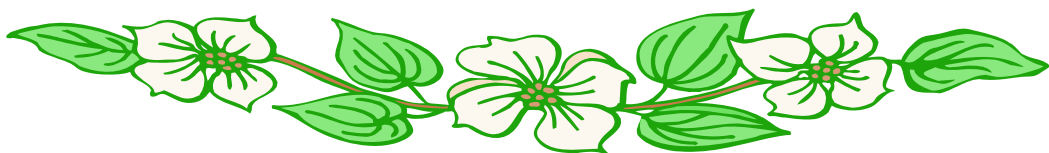
同じ屋根の下、下のフロアーでは、テーブルを囲んで生活介護型のメンバーがくつろいでいます。

分かれる前にしていた作業はやりたい人(できる人)はやり、やりたくない人(できない人)は、自分のやりたいこと(できること)をするのが基本です。

嘱託医による体やこころの不安や悩みの相談日を月1回設け、看護師に血圧測定をしてもらい、その日の体調をみます。

週1回の理学療法(マッサージ)では、障害のため動きづらい手・足や硬くなった筋肉をほぐし、少しでも生活の維持・向上につながればとリハビリにも取り組んでいます。

それぞれにゆりかごで過ごす目的は違いますが、休憩時間などは今までと同じようにキャビネットを超えておしゃべりに花を咲かせ、年1回の旅行やレクリエーション等楽しみを共有し、和気あいあいと過ごしています。



ー フライ新商品の発売 ー

「**メガ豚フライ**」という名前の新商品ができました。

基本のフライ生地には茹でたキャベツとお肉（焼肉味）がたくさん入っています。

行田・熊谷でフライという食べ物はメジャーですが、それ以外の近隣の市に販売に行くと、「フライってどういう食べ物ですか？」と聞かれてしまいます。

どうせ知らない人が多いなら、本来のフライだけじゃなくてゆりかご独自の物を考え、もっと色々な形の商品も販売しようと、ロングウインナーを入れた「フライドッグ」を3年前に開発しました。

嬉しいことに、フライドッグもリピーターが徐々に増えてきました。

今度は、もっともっとたくさんの若い人にフライを好きになってもらえる方法はないかと考えました。そして“焼肉味フライ”がひらめきました。

焼き肉味のお肉をフライの皮で巻いてみました。

早速、試食を作り職員・メンバーで食べたところ、なかなかの好評価でしたので、新商品として販売することとなりました。

5月3日・6日に深谷市正福寺で行われた縁日から「メガ豚フライ」を売り始め、何人かの若い男性に買っていただきました。

これからも、売り上げが伸びて通所者メンバーの工賃がUPするように、いろいろな商品を考えようと食いしん坊のおばちゃん販売職員は常々考えています。



ゆりかご秘伝(?)のソースが美味しいと
評判の**フライ**



ゆりかご独自の
ウインナーの入った**フライドッグ**

ー 悲しいメンバーの急死ー

「ばばあ」「うっせえ」「大きなお世話だ」
なんて口が悪い半面、「ありがとよ」
「世話になるな」なんて嬉しい言葉も
言ってくれて、本当は気の小さい寂しがり
屋の通称“おいちゃん”。



1人住まいのアパートに、いつも通り朝迎えに行きました。
「おはようございまーす。西浦さん」と声を掛けても返事が無く、未だ
寝入っているのかと寝顔を見て唇が紫になっている顔に様子がおかし
いと気づきました。
息を引き取ったのは朝の5時頃だったそうです。
苦しんだ様子が無い事を聞き安心しました。

沢山の病気をもち、山のようなお薬をおかずだと言いながらは毎回飲
んでいました。
ゆりかごにおいちゃんの姿が見えなくなった事が信じられず、寂しい気
持と残念な気持ちがこみ上げてきます。
ゆりかごが迎えに行き、見つけてあげられた事がせめてもの救いで
す。
きっと待っていたんだと思います。

身寄りの居ないおいちゃんをみんなが想い、四十九日の終るまで写真
とお線香を置き、毎日朝・夕「おはよう、おいちゃん」「さよなら、おいち
ゃん」と声を掛け「忘れないからね、」とお線香をあげていました。

悪い事も良い事も沢山した波乱万丈の人生を
送ったおいちゃん、天国に無事に行けたかな？
来世では全うな生活をして楽しい幸せな第2の
人生を送って欲しいです。
ご冥福をお祈りしています。



新聞・段ボール・
アルミ缶等を提
供くださる皆さ
まありがとうございます。
これからもよろし
くお願い致します。
す。

フライドッグ・フライ販売

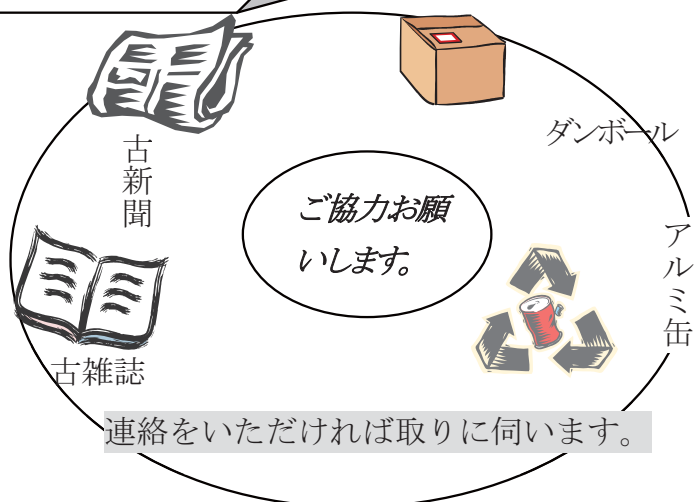
ゆりかご前販売
毎週火曜日
11時～2時

新商品
ナガ豚フライ

電話での予約注文あり！

賛助会員募集中

年会費・1口1000円～
会報を送らせて頂きます。



編集後記

孫が今年三歳2カ月で幼稚園の年少に入園した。

初めはルンルンで通い、泣いているお友達の肩を叩き慰めていたらしいが最近行きたくなくなってしまうらしい。

こんな小さくても社会生活、集団生活が始まったのだ。

これから先家族と毎日一緒に居る時間は長期の夏休みや春休み等のお休み以外は無くなってしまった。

そう考えるとこんなに小さくても人生が始まっているんだなと思ったらなんだか可哀想な気がした。 がんばれ！子供たち！！